

奔し、一時内閣の危機を告ぐるに至れり。此時に方りて我明倫會は非常時局に直面して政變を惹起するの不利なるを痛感し閣下に對し、辭職を不可とする卑見を開陳したることあり。

四、最近に至り兩黨首領を無任所大臣として入閣せしむるの運動政友會内に擡頭し、閣下も異議なきものゝ如く觀察せらるゝ處、此運動の動機魂膽は素より吾人の與り知る所にあらざるも、目下國民環視の焦點となりつゝある五・一五事件の審判に依りて、國民の政黨に對する反感憎惡の急益々熾烈を極めんとする現下の狀勢に於て政黨聯立内閣の形式を整へて内閣の政黨的色彩を一層濃厚ならしめんとするは、今や民心の離反を來しつゝある内閣の現狀に益々拍車を加ふるものにして策の得たるものにあらざるを信するものなり。

五、兩黨首相の入閣問題一時屏息するや、内閣は兩黨との國策協定に轉換せんとするの意圖あるものゝ如し。吾人の觀る所に依れば、眼中政黨あつて國家なき政黨と今更政策の協定を行はんとするが如きは、政府の無爲無策を天下に曝露するに等しくして、政府の威信を傷つけ民意に副ふ所以にあらずと信するを以て、不誠意なる政黨と妥協符合の姑息なる態度を一變し、政府独自の國策を提げ正々堂々其所信に向つて邁進せられんことを望む。

六、若し閣員にして首相の此決意に反對する者あるときは内閣の改造を敢行し、又議會之に反抗する場合には解散を斷行するの決意を固められんことを切望す。是れ齋藤内閣政綱の一たる政界淨化の爲めにも缺くべからざる對策とす。此牢固として抜くべからざる決意を以て國政に當らるゝに於ては、期せずして民心の結束國論の

統一を來し、曠古の非常時局を突破せらるゝは敢て不可能にあらざるを信す。  
若し閣下にして此決意なく、不誠意なる政黨と妥協符合是れ事とせらるゝに於ては、現内閣は到底曠古の非常時局に處するの資格なきものとして、明倫會は遺憾ながら反對の態度に出でざるの苦衷を諒とせられんことを望む。

### 齋藤首相に訓ふ

昭和八年九月十八日

既成政黨は既往數十年に亘りて我國の政治を腐敗濁濁せしめ、之を放置するに迄ては遂に皇國の前途を危うからしむる虞あるに至て俄然五・一五事件は爆發し齋藤内閣は成立した。故に此の内閣は其組閣の使命に鑑み斷然政黨を除外すべかりしに、首相の決意之に出でず、反對に兩大政黨を基礎として組閣したるは頗る其當を失したるものありしに拘らず、餘りに政黨内閣の積弊に懲りた吾人は、此内閣を以てするも純政黨内閣に優ること萬々なるを思ひ、從來好意を以て之を支持督勵して來たのである。

然るに八月に至り齋藤首相は更に一步を進めて兩政黨總裁を入閣せしめ又は之と國策協定を行はんとしたから田中本會總裁は特に首相を訪問して政黨との妥協符合を不可とする所以を力説し、政府は須らく独自の政策を提げて一意内閣の改造と議會の解散とに邁進すべきを進言したに拘らず、優柔なる首相は終に之を容るゝの勇斷な